

児童に寄り添う連携の在り方

～通級児童の実態とその子に関わる人々の支援を通して～

うるま市立勝連小学校 通級指導教室 安慶名みどり

1 はじめに

うるま市内の小中学校には、言語1 1学級、難聴2学級、通級指導教室2つが設置されている。8年前は言語5学級、通級2教室であったが、毎年新設され現在に至っている。

言語通級指導教室担当に携わり9年目を迎えたが、担当当初、子どもたちの実態は構音障害・口蓋裂・吃音等の音声機能の障害が主であった。しかし現在、自閉症・LD・ADHD・ASD等の発達障害があり、言語機能にも障害がある児童と特異的言語発達障害が通級児童の半数以上になっているのが現状である。

通級指導教室（ことばの教室）の担当として110人近くの児童に関わってきたが、その中から約30名の児童が特別支援学級へと移籍しニーズに応じた支援を受けている。このことは、通級指導教室が特別支援への入り口になっていることを表している。そのため、聞こえや言葉等の言語障害教育に関するだけでなく、通級してくる児童のニーズに応えるべく専門性が求められていると考えられる。

通級担当としてどのような支援や指導を行っていけばよいのか、いつ、どこで、誰と、どのような連携がとれるのかを念頭に置き取り組んできた。

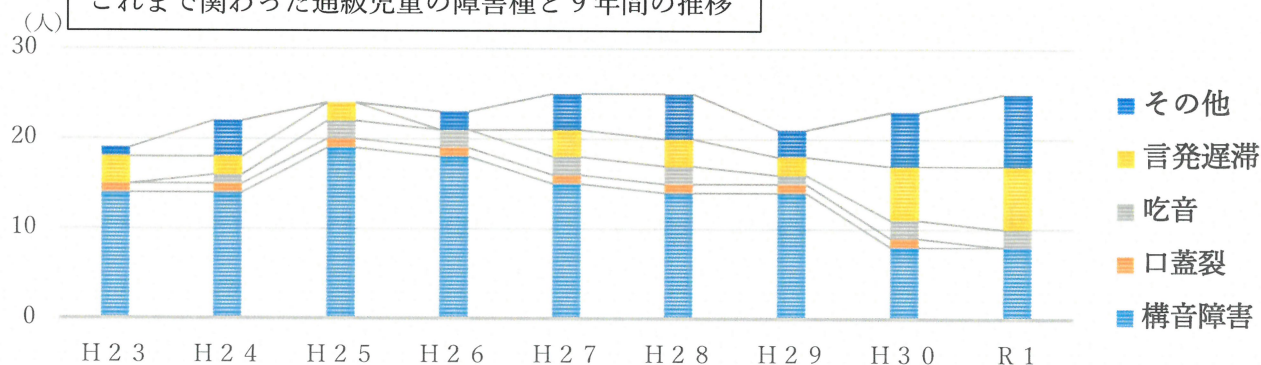
その中から事例1として口蓋裂の児童に対して行ってきた支援の中で、小学校から中学校への引き継ぎと連携、事例2は家庭保育を経て入学してきた児童や保護者への関わり方とその他の機関との連携で半年間のスパンで行ってきた支援をまとめてみた。

2 ことばの教室に通級している児童の実態と連携の実際

通級による指導を受けている子どもは、多くの時間を在籍する通常学級で過ごししている。そのため、通級による指導だけでは十分でなく、通常学級においてもその課題が軽減され、子どもが在籍学級で過ごしやすくなることが重要である。

ことばの教室では、主に構音障害、吃音、言語発達に遅れのある子どもを対象に個別指導を行っている。「障害による学習上又は生活上困難の改善・克服」を目的とし、通常学級から通級してくる児童に対して自立活動を中心に指導が行われている。（実態に応じて週1～8単位内）

これまで関わった通級児童の障害種と9年間の推移



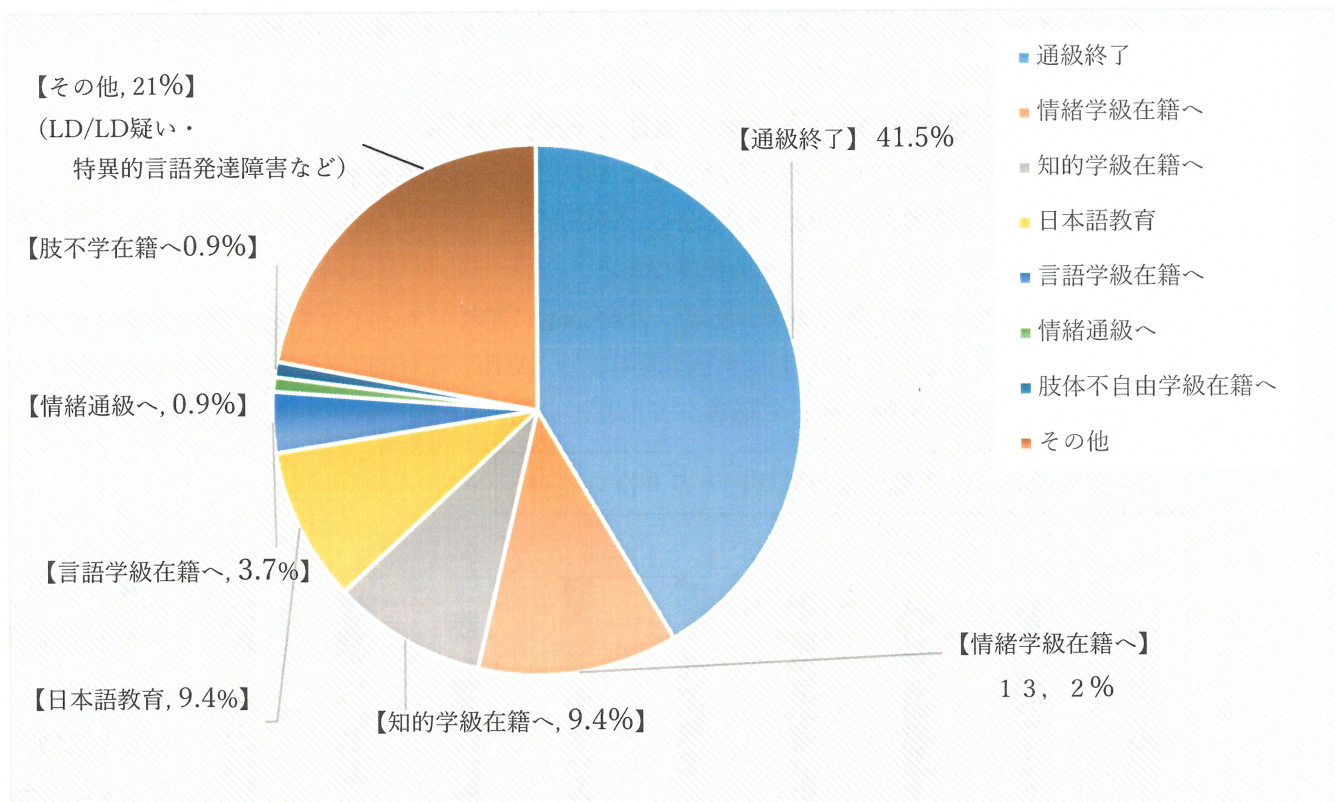
[通級児童への就学指導より]

通級児童の中には構音改善以外の面での支援を必要とする児童も多いため、常に保護者との面談の中で教育相談を行い、支援方法について話し合いを持ちながら進めてきた。

通級利用児童の障害種と就学支援の状況

| 通級後の支援方法 | 自校 (77人中) | 他校 (29人中) | 合計 (106人) |
|------------------------------------|-----------|-----------|-----------|
| 通級終了 | 32人 | 12人 | 44人 |
| 言語学級在籍へ | 0人 | 3人 | 3人 |
| 知的学級在籍へ | 7人 | 3人 | 10人 |
| 情緒学級在籍へ | 9人 | 5人 | 14人 |
| 肢体不自由学級在籍へ | 1人 | 0人 | 1人 |
| 情緒通級へ | 0人 | 1人 | 1人 |
| 日本語教育 (9人終了) | 10人 | 0人 | 10人 |
| その他 (継続・LD・LD疑い等) ヘルパー申請・SCへの連携 | 18人 | 5人 | 23人 |
| 合計人数 | 77人 | 29人 | 106人 |

※日本語教育9人終了の内訳 (7人・・・本国へ 2人・・・中学進学)



3 指導の実際

事例1 〈Y児童 自校通級 小1～小4を担当 小5から担当が変わり 現在 中3〉

(1) 口腔内の様子

- ・口蓋裂による構音障害（子音が抜け、母音のみの発音が多い）（ア、ナ、ハ、マ、ワ行は聞き取りやすい）
- ・口蓋垂が短いため幼 稚園の頃施術を行っている（周りの筋肉を集めて口蓋垂を作る）
- ・CATCH 症候群による鼻咽腔閉鎖機能不全
- ・口中にスピーチエイドを装着（成長とともに取り換える）



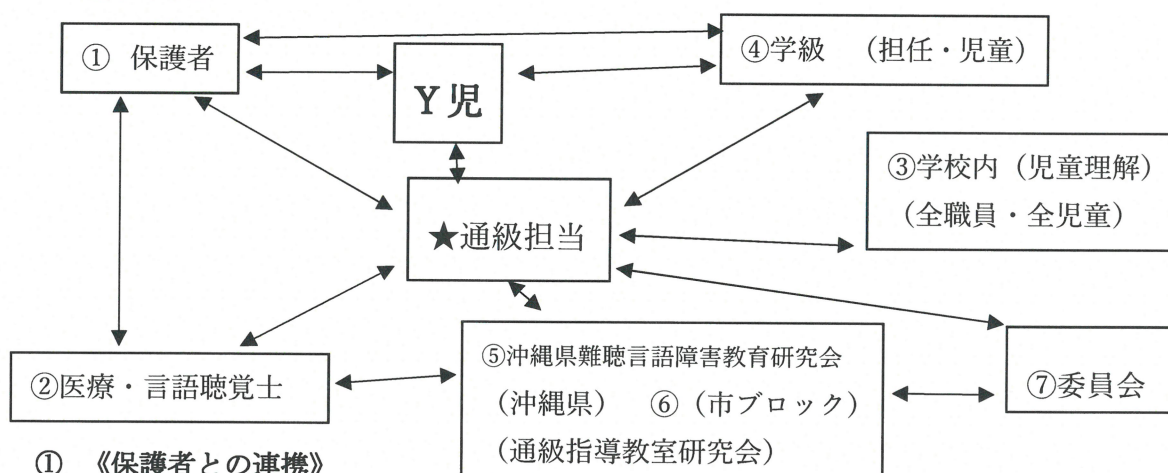
スピーチエイドの仕組み



(2) 児童の実態

- ・鼻咽腔閉鎖機能不全のため呼吸訓練がうまくいかず「吹く」という事に苦手意識が強い。
- ・運動能力がやや低く、バランスやリズムをとるのが難しい。
- ・おしゃべりをすることは大好きで、周りの児童とも楽しく過ごしている様子が見られるが伝わっていないことも多々あることが推察される。
- ・境界型知能（全検査 FSIQ ）
- ・児童の思い → 「みんなと いっぱい おしゃべりをしたい」

(3) 連携構想図



① 《保護者との連携》

児童の持ち合わせている障害の様子から早目に保護者面談が必要と考えた。入学直後に話し合いを持ち、成育歴・療育歴・治療歴等の様子を聞き、これからの支援のあり方について話し合った。また、関わっている言語聴覚士との面談や言語訓練の参観許可をお願いしてもらい、訓練に同行させてもらった。

保護者の願いとして「本人にあったペースで口腔機能の訓練を学校でも継続して行ってほしい。楽しい学校生活を送ってほしい」という声があり、連絡帳を作成し児童の通級の様子を毎回伝え、適時、保護者との面談を行った。

保護者の願いや思いをできるだけ受けとめ、次担当への引継ぎを考えながら行った。

② 《医療機関との連携》

乳幼児の頃から多くの医療と関わっている為、保護者の同意を得て言語聴覚士との面談を行い言語訓練の様子を数回見学した。担当に繋がることで、リハビリテーション実施計画をもとに、学校でできる支援法や訓練方法を教わり指導することができた。

研修会においても、講師としてY児を担当する言語聴覚士を招聘し助言を得ることができる為、支援方法を教わりながら児童の指導に携わることができた。言語担当は言語訓練を行う上で専門性が不可欠となる為、言語聴覚士との連携は最も重要と考える。

③ 《学校内での連携》

通級による指導についての理解啓発が重要と考え、全職員に向けて通級指導教室の役割等を伝えた。構音訓練や指導を行う意義についての理解を特別支援コーディネーターと連携し理解啓発授業や公開授業を行った。

Y児に関しての会話の様子を録画したビデオを見せ、障害の特性（口蓋裂やCHTCH22症候群等）に関する情報提供を行ったと同時に、児童や保護者の思いを伝え、各学級においての障害理解授業をお願いした。また全学級に対しては、「ことばの教室」で行われている音読ウォーミングアップ等を伝え、通級児童に対してのケアを含めた一斉指導を行った。

④ 《学級との連携》

児童の訓練の様子を担当に参観してもらい、児童について話し合う機会を適時持つ中で、音読や人前で話す場面など学籍学級における配慮事項の話し合いを行った。

学籍学級における障害理解授業を行うことにより児童が安心感や自信を持てるよう、中学年になると特別支援コーディネーターと連携して、脳の引き出し「みんながって みんないい」の理解啓発授業を行った。その際、児童の4年間の訓練の様子や変化など、ビデオを通して見せることにより障害に対する理解啓発も行った。

⑤ 《難聴言語障害教育研究会との連携》

沖縄県難聴言語障害教育研究会やブロック研究会及び通級指導教室担当者研究会において、研修を通して情報の共有や支援方法・指導方法を学びあうことができる。その中で公開授業や事例報告を行い、研究会のメンバーからのアドバイスや言語聴覚士からの細かい助言・支援や指導法などを受けることが児童の支援に繋がった。

ブロック研を通して常に情報共有を行い、近隣通級児童及び言語在籍児童との交流学习を計画実施することができた。児童相互の障害認識を考える機会ともなった。

⑥ 《担当が変わることで行った連携》

担当当初から人事異動を念頭に置き支援や指導を進めてきた。担当が変わるといいう事が児童や保護者にとっての不安材料にならないよう、次の担当への連携等は、個別支援計画を作成し、行ってきた支援や指導をまとめ引き継いだ。

保護者の1番の迷いが中学進学に向けて支援学校か、支援学級を立ち上げるかという点であった為、次担当と一緒に中学校との連携も話し合ってきた。

言語学級立ち上げの際は、関わってきた担当ごとに必要な資料を作成し提出した結果、中学校に言語学級が立ち上がり小中連携での支援が進められた。今年度(中3)

の7月に中学校にて授業研が行われ、関わった言語担当と保護者参観のもとY児との再会ができた。その際、9年間の保護者の思いや生徒の成長を強く感じた。

⑦ 《教育行政との連携》

常に教育委員会が大きな支えとなり、難言研に対しての絶え間ない理解と支援を感じている。年2回の指導主事との話し合う時間を設けて頂き、多面的に助言を仰ぐことができる。児童に必要な検査器具を整えるための支援等も有難く感じている。

また、授業研への参加や担当としての困り感の相談に対してのアドバイスなどの確で心強い。

(4) 行った活動と連携 (H23～令和1年を通して)

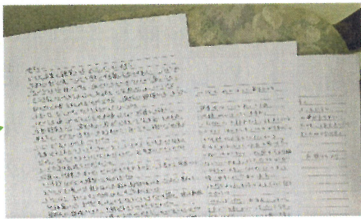
| 学年 | 学習活動 (支援・指導) | 連 携 |
|------------|--|---|
| H23 1年生 | <ul style="list-style-type: none"> ・ラポート作り ・粗大運動 (バランス訓練)、微細運動 ・ブローイング ・S音 ・母音の発声 ・発語練習 (言語聴覚士との連携で同じ音) ・当該学年の読み書き ・児童にあった教材作り | <ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談・・・実態把握 ・医療関係との面談 (支援法・指導法) ・在席学級担任との話し合い (情報共有) ・全職員への児童理解 ・難聴言語障害教育研究会 ※インターネットからの情報 |

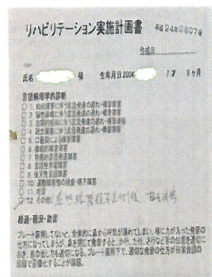
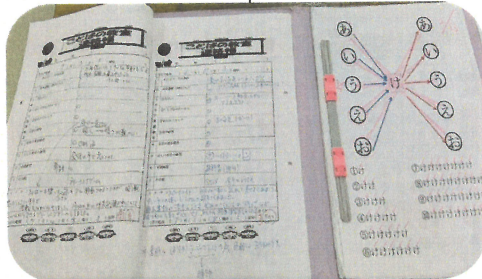
※曲に合わせてのウォーミングアップを作成

- ①音読ウォーミングアップ (1分用) →全学級へ伝え、学級でも行ってもらう
 呼吸→体ほぐし→バランス→緊張・脱力→口のたいそう→母音の口形→深呼吸
- ②ばたからたいそう



| | | |
|------------|--|--|
| H24 2年生 | <ul style="list-style-type: none"> ・粗大運動 (特にバランス)、微細運動 ・感覚統合運動、ビジョントレーニング ・呼気訓練、腹式呼吸 ・母音、パタカラ口体操 | <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック研にて授業公開 (指導案④) (先輩方からアドバイスを受ける) ・通級担当者研にて事例報告 →〈言語聴覚士を招聘し助言を受ける〉 |
| H25 3年生 | <ul style="list-style-type: none"> ・発語練習→発語練習版作成 ・学習支援 (言語事項の指導) | <ul style="list-style-type: none"> ・適時、言語聴覚士と情報共有 |

| | | |
|---------------------------------------|---|--|
| <p>H26 4年生</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の変容を公開しての授業研究会 (保護者にお手紙を読んでもらった) <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>保護者と 相談の上、 手紙は、 そのまま預かり、 児童がもう少し 成長した頃に 渡すことにした。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ★障害認識及び理解啓発授業 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>脳引き出し</p> <p>「みんなちがってみんないい」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>児童の気持ちを学級で発表</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の頃と現在の発音の違い ・担任からのお手紙 ・次年度からの担当への引継ぎ資料作成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック研にて授業公開 (指導案⑩) ※保護者参観及び参加 ★保護者からのお手紙 (1回目)  <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーター ・学級担任からの手紙 ・学級の児童からのメッセージ ・教育相談 (中学に向けて準備) (SCとの面談) ・保護者面談 (担当が変わるため) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>要望 「言語障害のある、 同年齢の子との交流希望」</p> </div> |
| <p>H27～H28 5年生 ～6年生</p> | <p><u>新担当へ引継ぎ</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ol style="list-style-type: none"> ① 支援記録ファイル ② 個別支援計画 ③ 児童の思い ④ 保護者の思い (中学進学・交流) </div> | <p><u>新担当への引継ぎ</u></p> <p>(児童の実態、個別支援計画、ファイル)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会へ書類を揃えて提出 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>保護者の意見書</p> <p>通級担当 (2人) → 小学校での資料 学校長 (小中) → 新設要望書作成 医療機関 → 診断書及び意見書</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事との話し合い |
| <p>H29 (中1) ～ 現在 (中3)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・交流学習 (3校合同) ※母親からの要望を引き継いでの計画実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・他校の児童との交流 |
| <p>H29 (中1) ～ 現在 (中3)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校言語学級立ち上げ (新担当) ・令和1年7月 中学校にて授業参観 授業内容 (進路選択にあたって) <ol style="list-style-type: none"> ① 「Yさんらしい生き方」 ② 「家族の思い」 | <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック研にて情報共有 ・現担任へ授業を依頼し参観 (小学校担当2人と保護者参加) ★保護者からのお手紙 (2回目) (この日5年前の手紙も渡す) |



(5) 自立学習指導案と資料の一部 (指導案A②)

【公開授業① 児童：2年生の頃】

1 指導項目 「S音(サ)の構音指導」・・・・・・指導案は一部省略

2 本時の目標

- (1) 呼気訓練をがんばりS音(風の音)を出すことができる。
- (2) 楽しく「ことばあそび」をしながら発音練習を意欲的に行うことができる。

3 児童の指導について

通級指導教室の役割の一つは、言語指導の場所が変わっても保護者や本人が安心して言語の指導を受けられるようにすることである。そのために通級指導教室と医療機関とが連絡を取り合いながら、子どもの構音状態を的確に把握し適切な指導を行うことが必要である。もう一つは、日々通学する通常の学級において子どもの力が十分に発揮できるように支援することである。口蓋劣の子どもは、発音のことや手術痕のことを気にして消極的になってしまう場合も多いので、通常の学級担任との連携が必要である。

本校に在籍しているY児については、週3回通級して行く中において、今後、自立活動の部分では「自分の障害を理解し、自らの課題に取り組み生き生きと生活できる子」を指導目標とし、子どもの事例を通して構音指導の方法と関係機関との連携の在り方も考えながら進めていきたい。

4 指導内容

(1) 構音器官の機能訓練

- ①口の体操 ②舌の脱力・安定 ③呼気訓練 ④粗大運動

(2) 構音指導

- ①母音の指導 ②誤り音の構音指導 ③「となえうた」による音の獲得と定着

5 展開

| | 学習活動・内容 | 教師の支援・留意点 | 評価 |
|----|--|---|--|
| 導入 | 1、初めのあいさつをする。 2、自由会話をする。 3、めあてと学習の流れをつかむ。 ①息の訓練をがんばる ②サ行音の練習をがんばる ③ 楽しくことば遊びをする | ・姿勢を確認する。 ・回りを意識せず、興味のあることから話をさせる。 ・学習内容を意識させる。 ・呼気訓練の大切さを知らせる | ・姿勢を正すことができたか。 ・楽しく会話ができたか。 ・学習の流れをつかめたか。 ・めあてを持つことができたか ・学習への意欲が見られたか |
| 展開 | 4、母音の発声練習をする。 ①母音の口形と舌位 ・アオウ ・アエイ ・アオウエイ ②母音がつく単語の発声 5、身体ほぐしをする。 | ・母音の発音の仕方について基本的な特徴を確認させる。 ●2つの口形(丸口・平口) ●舌先の位置 ●上下の歯の見え方 | ・母音の口形と発声が正しくできたか。 ・舌が安定しているか。 |

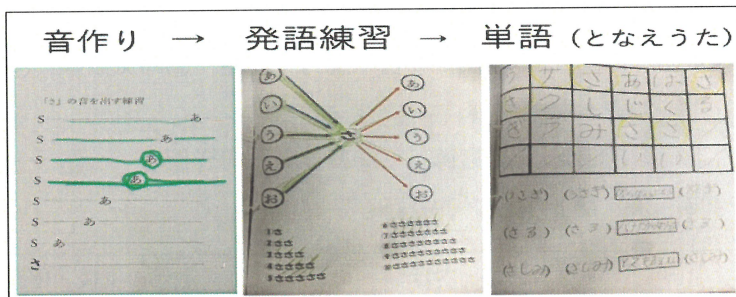
| | | | |
|-------------|---|---|--|
| 開 | (呼吸→口舌→母音→パタカラ →バランス) 6、サ音の練習をする。 ①呼気訓練 ・ストローを活用(吹く・吸う) ・笛を吹く ② S音+母音の練習をする。 ③ サ行音に近い音を出す ③ となえうたをする。 | ・リラックスさせる。 ・S音を引き出す練習をする。 ・ストローを活用して吹く・吸う を楽しくできるよう工夫する。 ・楽しみながらS音のカード読み をさせる。 | ・身体ほぐしができたか。 ・バランスが上手にできたか ・吹く・吸うが上手にできたか。 ・呼気を長くまっすぐ出すこと ができたか。 ・S音と母音をつなげてサ音を 出すことができたか。 |
| ま と め | 7、今日学習を振り返り感想を話す 8、終わりのあいさつをする。 | ・頑張ったことや、上手になっ てきたことをほめ、次時の学習へ の意欲につなげたい。 ・姿勢を確認させる。 | ・頑張ったことや、楽しかった ことが、正しい発音で話すこ とができたか。 ・あいさつがきちんとできたか |

(4) 評価

- ①呼気訓練をがんばることができたか。
- ②楽しく「ことばあそび」をしながら発音練習を意欲的に行うことができたか。
- ③サ行音の発音練習を頑張り、正しい発音に近づけることができたか。

[写真資料]

呼気訓練の様子



3 授業研究会

授業者の反省

- ・緊張して授業が早く進んでしまった。もう少し落ち着いたペースでやってあげたかった。
- ・A児が意欲的に頑張り、言葉を出してくれたことや表現してくれたことが嬉しかった。

参観者からの感想及び助言

- ・身体ほぐしの場で使った曲がリラックス効果があり工夫が見えた。
- ・教材、教具の工夫があり、感覚全てを使っての全体構造法を取り入れた授業であった。
- ・ことばあそびは発音の練習をするとともに、言葉を引き出すのに有効である。
- ・就学前と比べて、とても音が聞きやすくなっていた。(前年度の言語検査員)
- ・指導案に指導項目を学習指導要領の中から領域を書いた方がよい。

課題

- ・これからの訓練内容や方法・児童や保護者の精神的なケアをどのように持っていくか。
- ・学級、学校全体として通級児童や特別支援に対する見方を他の子どもたちにどう伝えるか。

【公開授業② 児童：4年生の頃…週1回の通級】

1 指導項目「口蓋裂のある児童の指導の実際と構音指導」 特支学習指要領「自立活動」『6コミュニケーション』(2)(3)

2 児童観 (児童の実態及びこれまでの流れ)

- ・担任の配慮により学級内での発表を進んでやる姿が見られるようになってきた。
- ・今年度、回りとのトラブルが多く障害受容の方向で精神的な面でのケアを必要とする。

4月～・・・○全職員に児童の様子をプレゼンテーション

○学級の児童に本人の気持ちを伝える。(障害について学級指導)

○練習している様子や、これまでの変容をビデオで見せる。

3 題材 パ行音「パ、ピ、プ、ペ、ポ」を正しく発音しよう

4 本時の指導

(1) 本時のねらい

○口唇・呼吸訓練をがんばり「パピプペポ」の音を正しく出すことができる。

(2) 展開

| | 学習活動・内容 | 教師の支援・留意点 | 評価 |
|-------------|--|--|-----------------------------------|
| 導 入 | 1 始めのあいさつ | ・明るく元気な声で言わせたい | ・元気よくできたか。 |
| | 2 ビデオ視聴 (1年生の頃) | ・当時の様子や発音を聞かせる | |
| | 3 めあてと学習の流れを確認 | ・学習内容を意識させる。 | ・流れをつかめたか。 |
| 展 開 | 4 ウォーミングアップ。 (呼吸・バランス・口舌・母音の発声等) ・ビジョントレーニング ・パタカラ体操をする | ・音楽に合わせてリラックスさせる ・ <u>ビジョントレーニング</u> を取り入れる ・子音省略をせず声を出させる (ストロー、モール) | ・1つ1つの軽い運動ができたか。 |
| | 5 機能訓練 ・(口唇) モール送り、スプーンのせ ・(吹く) ティッシュ吹き、ダーツ | ・唇等の筋トレをさせる。 ・呼吸漏れがないか確認する ・両唇の使い方の違いに気付かせる。 | ・手を使わず運べたか |
| | 6 構音練習をする。 ・音の聞き分け (ばばま) ・発音練習 (ば行音) ①単音節 ②連続 ③単語 | ・口の中に息をため、一気に破裂させるようにする (小さな声でもよい) ・不明瞭な時は言い直しをさせる。 | ・音の弁別ができたか ・発音に気をつけて言うことができたか。 |
| | 7 ことばあそびをする。 | ・ゲームの中でパ行練習をする | ・楽しく練習できたか |
| ま と め | 8 頑張ったことや楽しかった事をゆ っくり話す。 ★保護者からのお手紙を読む (母親) | ・本人のがんばりを誉め、次時の学習の意欲につなぎたい | ・がんばったことや楽しかったことが正しい発音に近い音で話せたか |
| | 9 終わりのあいさつをする。 | | |

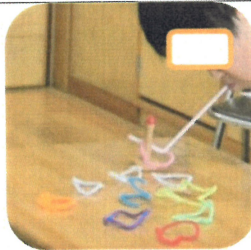
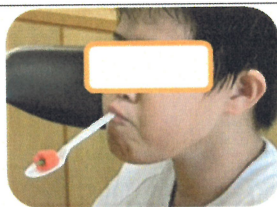
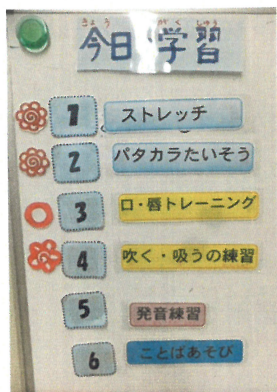
★ここで、急遽、保護者からのお手紙をよんでもらう

時間を持つことができた。

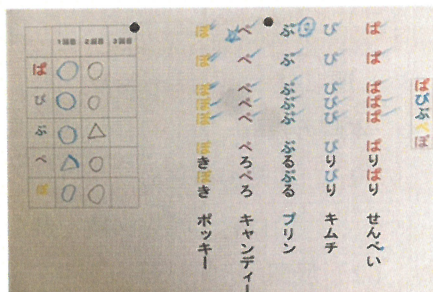
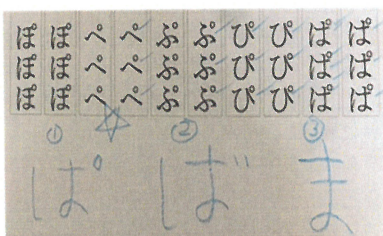
(生まれてからこれまでの児童の様子と保護者の気持ちや込められた思いを参加者全員で共有できた。



【写真資料】



口唇筋トレ・呼吸訓練の様子（スプーンのせ・モール運び・ダーツ）



保護者からの手紙

〇〇へ
いつも言葉の練習とたんがんでござります。
オーストラリア、おぼろげに脳炎に似、何層も入試。
全身の検査で、染色体の一部がおけつて生かすなどの
果てに、おぼろげに短くおぼろげにたいへん、おぼろげにたぐひ
にたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
言葉以外のコミュニケーションとしておぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん

おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん

〇〇のおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん
おぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへんおぼろげにたいへん

5 授業研究会

授業者の反省

- ・自分が発している音が、人にはどう伝わっているのかを確認しながら指導にあたってきた。障害認識・障害受容という面を念頭に置き、メンタル面でのケアも適時行っている。
- ・1年生のときと比較しての授業の流れに持って行った。
- ・急ではあったが、授業の後半で親の思いを話してもらう機会が持ててよかった。

参観者からの感想及び助言

- ・授業者の訓練過程にそって一生懸命ついてきている児童の姿が見られた。
- ・1年生の頃の様子が記録として残されていたが、繰り返し訓練の積み重ねをすることによって、良い方向へ向かっている事を目の当たりに感じた。最低でも週1回の通級は大事。
- ・1年生の頃の自分をビデオで振り返る事で成長を確認する場があり自信に繋がったと思う。
- ・まとめで心理的な安定を図るための工夫が見られ、感動的なまとめの仕方であった。

(3) 改善点と助言

- ・有声音の難しさを感じ実態に応じた声の出し方など考えないといけないと思った。
- ・指導案の中に本時の重点学習が見えるような書き方がよい。(めあてを□で囲むこと)

(4) その他

- ・ことばの教室は誤り音を改善させる教室ではあるが、心の安定を図り自信をつけさせ自己肯定感を育てる場でもあるということが見える授業であった。児童に寄り添い育むこと、用意周到な準備の大切さ等、1人1人の構音障害の克服に大きく繋がる事を感じた。
- ・障害理解のためにも、協力学級との連携はすごく大切だと思う。

【公開授業③ 中学校との連携 児童：中3現在】

- ① 令和元年5月・・・現担任へ授業をお願いした
- ② 要望・・・・・・・・児童が4年生の頃書いてもらった保護者からの手紙を資料として授業の中に組み込んで行ってほしい。
- ③ 令和元年7月・・・公開授業(授業者：現担任 参観者(小学校通級担当2人、保護者))

【授業内容】

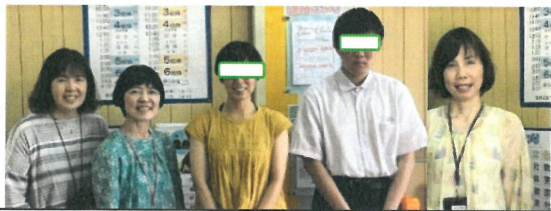
- 進路について ○あなたの進む方向
- 人生で大切にしたいもの ○価値観って？
- 自分らしい生き方 ○進路選択とは
- 家族の思い(5年前と現在)

今回も保護者がお手紙を書いて持ってきてくれた。5年前の手紙も一緒にして授業に組み込んでくれた。



早いもので、[]もう中学三年生になり高校受験をむかえるという節目に来たのですね。

まだ何かと体調を崩し、学校を早退したりひどい時には入院までしたりしているのに、前向きに捉えるよう頑張っている姿を見ると心配も半減し、とても頼もしく成長してくれたと安心します。



小学校通級担当・保護者 ・本人 ・現担任

さて、次は難しいかもしれませんが、自分で進路(将来)を考えて選択していかなければいけません。将来どういう事をしたいのか、どういう姿になりたいのかを考えながらの選択の連続になるかと思えます。その中でやりたいことを見つけ、それにチャレンジしていくことで[]はまたとても成長をしていく事でしょう。その選択に不安もあるでしょうが、選択した先に[]がどのような結果ができるかをイメージし、どのような成功(楽しみ)があるのかを考えて下さい。[]ならどんな選択をしても我慢強く頑張れると思います。

お父さんやお母さん、家族はいつでも[]の味方です。今までのように何か気になる事、不安に思う事、嫌な出来事があればいつでも相談して下さい。そして今までのように一緒に成長していきましょう。

令和元年7月3日 父より

事例2 〈Y児童 現在1年生 校内運用にて言語通級 週1予定〉

児童は、市の就学時健診の際に相談を受けた担当からの情報により、気になる児童としてあがった事例である。面談した中から得られたことが、「家庭保育で育ち全く発語がなかった」「K小学校かY小学校に入学する予定」という情報のみであった。自校か隣校のどちらかという事を聞き、そこから行った連携と現在に至る児童の様子についてのまとめ。

| 月 | 活動したこと（情報収集） | 連 携 |
|---------------|--|---|
| H30、11月 | ★就学時健診後、担当より情報提供があった（難言研のメンバーから） | |
| H31、3月 | <p>Y 児童が入学してくることを確認</p> <p>① 保護者へ連絡し、入学の確認を行う</p> <p>② 保護者面談（母）・・・・・・1回目</p> <p>○保護者の願いを聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長に合わせてほしい ・無理強いはしない（家庭教育も考えている） ・食へのこだわりがある（地産） ・ランドセル以外のカバンを持たせたい | <p>・入学説明会のはがきより</p> <p>・教育委員会へ確認</p> <p>〔面談者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長 特別支援コーディネータ 養護教諭 教育相談担当（通級担当） |
| H31、 4月 3日 | <p>家庭保育の中で育ててきた理由 ⇒ 「あなたは私たちの家族」を伝えたい</p> <p>③ 母子面談・・・・・・2回目</p> <p>○初めて児童と対面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親から離れず、顔を手で覆っている ・全く発語がない ・体幹の弱さや未熟さが見受けられた | <p>〔面談者〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネータ ・教育相談担当（通級担当） <p>成長の遅れを感じた</p> |
| 4月 5日 | <p>★保護者は入学後すぐに特別支援学級に入級できると思っていた</p> <p>④ 教育委員会との話し合い</p> <p>要望・・・支援員の要請と就学支援に向けて 児童の観察と実態把握</p> | <p>・特別支援担当の指導主事を 交えての話し合い</p> |
| 4月 7日 | <p>⑤ 新1年生担任との話し合い (就学指導を通っていないため通常学級に入る)</p> <p>⑥ 入学式前の面談及び入学式会場見学（母子）</p> <p>⑦ 入学式参加・・・・・・通級担当と入場</p> | <p>・校内児童理解会議</p> <p>・委員会訪問により児童観察 (指導主事と心理検査員)</p> |
| 4月 10日 | ⑧ <u>心理検査（WISCⅢ）実施</u> ・・・・検査不可能 | |
| 4月 19日 | ⑨ <u>教育研究所より臨床心理士来校</u> ・・・・検査不可能 (専門医のもと検査を進めたほうがよい) | ・市教育研究所へ検査依頼 |
| | <p>★ 学級と通級指導教室の両方で支援を行っていった</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童に関わる人をつけた（通級担当・登校支援員）・・・顔を覚えさせる ○保護者との情報共有（朝・帰りのほぼ毎日） ○保護者との面談を重ねながら、児童のアセスメントを行う ○通級指導教室（粗大運動、ビジョントレーニング、母音の発声等を行う） ○学級においての変化も著しい → 担任による支援・子どもたちの対応 | |

| | | |
|-----------------------------|--|---|
| <p>9月半ば ～ 現在に至る</p> | <p>⑩ I病院にて発達検査（新版K式）</p> <p>⑪ 就学支援を行い特別支援在籍児童として申請</p> | <p>・病院（内科医・臨床心理士）</p> <p>・教育委員会</p> <p>・障害福祉課</p> <p>・児童家庭課</p> |
|-----------------------------|--|---|

4 成果と課題

〔成果〕

- ・児童のアセスメントや保護者との話し合いを丁寧に行うことにより、どのような連携が必要かを考え、支援のあり方や課題の克服が増えてきたため児童の自己肯定感が育ってきた。
- ・児童に関係する大人（保護者・教員・連携機関等）がベクトルを合わせることができてきたために、必要な支援や連携がその都度とれるようになった。
- ・「2通の手紙」から、生徒がこれまでの保護者の思いを感じとり、次へのステップとなった。

〔課題〕

- ・合理的配慮について学校全体としてどう対応していくか、障害認識をどのように児童生徒に伝えていくか、教育相談と通級指導教室の担当としての課題も大きいと感じる。
- ・専門性を持って、福祉等の関係機関とも連携をとりながら相談や情報提供を通じて適切な支援を行う必要がある。
- ・これまで以上に保護者の理解、啓発の促進を図っていく必要がある。

5 おわりに

教育行政との連携の中から、市内の言語担当にも、就学相談委員及び就学支援委員に携わらせてもらえるようになり、就学までの一連の流れを経験することができた。そのため、これからどのような連携が必要になってくるのかを考える良い機会となった。また、家庭環境からくる様々な問題や障害をもつ子どもの支援等、抱える課題が多いと感じるケースもあるが、「子どもを思う親の気持ち」「保護者の悩みや願い」等、一緒に考える時間にもなった。

小学校という限られた枠の中で、どのようにして児童や保護者と向かい合い、効果的な連携の仕方があるのか、更に学習を深めていきたいと思っている。

難言の宿泊研修会で「子どもを丸ごと受けとめる」という、牧野泰美先生の言葉が心に強く残っている。喜怒哀楽を感じながら、わずかな一歩に笑顔を見せてくれる子に心が救われる。そして一緒に喜びを分かち合える仲間との心のつながりを糧に、児童や保護者に寄り添いながら関わっていきたいと思った。出会う児童・保護者・人々との出会いや思いを今後も大切に、自分の学びの1つとしたい。今回の連携から、それぞれの心の繋がりが見えた。

〈主な参考文献〉

「きこえとことば研修テキスト～第2版～」全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会
「言語障害のある子どもの通常の学級における障害特性に応じた指導・支援内容・方法に関する研究」 牧野 泰美 他 国立特別支援教育総合研究所
LD研究 第26巻 第4号

- ・「通級による指導に関する専門性 ～ことばの教室の活動を踏まえた検討～」 小林 道代
- ・「通常の学級と通級による指導の学びの連続性に関する研究」 清水 潤 他

